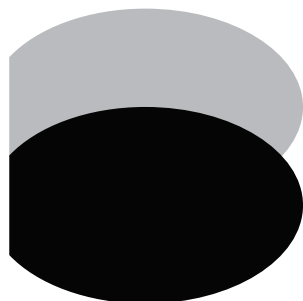


20230331

絵本学会 NEWS No.75

発行：絵本学会
発行日：2023年3月31日
編集：絵本学会広報委員会
絵本学会事務局：〒100-0003
東京都千代田区一ツ橋 1-1-1 パレスサイドビル（株）
毎日学術フォーラム内
電話：03-6267-4550
Mail：maf-ehongakkai@mynavi.jp
HP：http://www.ehongakkai.com



絵本学会

- ・第26回絵本学会大会開催のお知らせ
- ・訃報 三宅興子さんのご逝去を悼んで
- ・研究委員会「絵本研究会2022」開催報告
- ・研究委員会からのお知らせ
- ・紀要編集委員会からのお知らせ
- ・第5回『日本絵本研究賞』等候補(2022)：一次選考報告
- ・新入会員の自己紹介
- ・寄贈図書
- ・絵本学会理事会議事録
- ・イラストレーション募集のお知らせ

■第26回 絵本学会大会（6月17日・18日、大阪大谷大学）開催のお知らせ■ 大会テーマ：“よりどころ”としての絵本

【大会テーマ】“よりどころ”としての絵本

COVID-19、自然災害、ロシアによるウクライナ侵攻等、国内外問わず不安定な社会状況が続いています。そういった中、絵本は私たちにとってどのような存在なのでしょう。絵本と共にどう生きているのか、厳しい状況の中で絵本は“よりどころ”となり得るのか、考えていきたいと思います。

関西での絵本学会大会開催は第19回大会以来、対面での開催は第22回大会以来です。ご参加を、お待ちしております。

【期 日】2023年6月17日(土)・18日(日)

【会 場】大阪大谷大学 志学台キャンパス

〒584-8540 大阪府富田林市錦織北3丁目11番1号

<https://www.osaka-ohgani.ac.jp/>

*近鉄南大阪線「滝谷不動駅」下車、徒歩約7分

*タクシーは、「滝谷不動駅」からはご乗車いただけません。

南海高野線「金剛駅」からご利用ください(約15分)。

*本学スクールバスはご利用いただけません。



【参加者へのお願い】

*学内食堂は休みで、近隣に飲食店はございません。昼食はご持参いただくか、弁当をお申し込みください。

*宿泊先は各自で手配をお願いします。大阪市内(天王寺・なんば近辺)が便利です。

*懇親会は行いません。ご了承ください。

*会場校への直接のお問い合わせはお控えください。

【参加費】 会員・準会員／1,800円

一般／1日1,500円・2日間2,000円(当日支払)

高校生・大学生／500円(要学生証)

(大阪大谷大学学生及び協定校の高校生は無料)

【昼食費】 1,000円(弁当お茶付き2日目のみ、要事前申込)

【申込方法】 5月1日(水)から5月31日(金)までに、Googleフォーム(<https://onl.bz/fLd97RY> 下記QRコード)もしくは同封のはがき(切手を貼ってください)にてお申し込みいただくと共に、参加費および希望者は昼食費を同封の振替払込書にて「絵本学会大会実行委員会」の下記ゆうちょ銀行口座へお振り込みください。

*口座記号番号

00930-4-213565

*他行から払い込みの場合

店名：099 種別：当座

口座番号：0213565

【総会欠席者へのお願い】

6月17日(土)の総会を欠席される方は、上記申込フォームもしくは同封のはがきにて、委任状をお送りください。



【プログラム】

第1日目 6月17日(土)

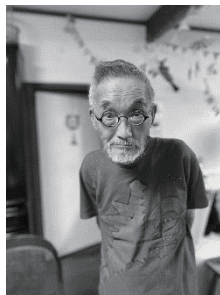
- 12:15 ~ 受付 …3号館玄関ホール
13:00 ~ 開会式・基調講演 …カトレアホール
15:30 ~ 研究発表Ⅰ
17:15 ~ 第26回絵本学会総会 …1-101 A 教室

第2日目 6月18日(日)

- 9:00 ~ 受付 …3号館玄関ホール
9:30 ~ 研究発表Ⅱ
11:15 ~ 作品発表
12:15 ~ 休憩
13:30 ~ ラウンドテーブル
15:40 ~ 閉会式 …3号館玄関ホール

◎基調講演「絵本と生きる」

半世紀にわたり絵本を描き続けてきた田島征三(1940-、大阪生まれ)は、今もなお挑戦し続けています。その思いを語っていただくと共に、若い世代の声を手がかりに、なぜ私たちは田島作品に心揺さぶられるのかを考えます。



第1部 講演 田島征三氏(絵本作家)

第2部 ディスカッション

聞き手: 水野恭子(岡崎女子大学)

鈴木穂波ゼミナール 4回生(大阪大谷大学)

司会: 鈴木穂波(大阪大谷大学)

◎研究発表Ⅰ 6月17日(土) 15:30 ~ 17:00

A(1-101 A 教室) 座長: 藤本朝巳・生駒幸子

- ① 林明子の絵本制作過程の研究～『こんとあき』ダミー本後半4作品の変遷から見る
関 純奈(愛知工業大学附属図書館)
② 「かたあしだちょうのエルフ」の自己犠牲とはー臨床心理学的観点からの検討ー
藤井 淳子(星槎大学大学院・航空自衛隊)
③ 加古里子絵本の時間経過表現～文と絵の効果的なコラボレーション～
前田 敬子(仁愛女子短期大学幼児教育学科教授)

C(1-108 C 教室) 座長: 水島尚喜・土居安子

- ① 文字なし絵本の歴史ー19-20世紀前半の事例調査
山本 美希(筑波大学)
② 文字なし絵本の周辺要素の考察ー読みの手がかりとして
永井 雅子(都留文科大学非常勤講師)
③ 1990年代以降の現代アーティストによる絵本の仕事
児玉 茜(国立国際美術館・金城学院大学)

D(1-109 D 教室) 座長: 丸尾美保・長野麻子

- ① 絵本にみるシンデレラ物語の神話性ー階段の表現をめぐる
山下 彩華(筑波大学大学院人文社会科学研究所科博士後期課程)
② Beatrix Potter の作品と喪失の旅ー翻案としての「こぶたのロビンソン」
三井 敏朗(相模女子大学非常勤講師)
③ 複数存在する日本語訳本についての考察～『het spook
nijntje』を中心に～
岸田 容子(JPIC読書アドバイザー)

◎研究発表Ⅱ 6月18日(日) 9:30 ~ 11:00

A(1-101 A 教室) 座長: 馬見塚昭久・生田美秋

- ① 日韓の絵本による街づくりーポストコロナに向けて人が集まる場の必要性を考える
尹 恵貞(一橋大学)・小松 麻美(神戸芸術工科大学)
② 絵本でつなぐまちづくり「しべつ絵本ツアー」の実践
若林 みずほ(北海道士別市立士別南小学校司書教諭、絵本専門士)
③ 図書館における布の絵本の提供について
林 左和子(静岡文化芸術大学文化政策学部教授)

C(1-108 C 教室) 座長: 佐々木由美子・山本美希

- ① 中国の絵本の現状と課題ー日本の絵本形成史をふまえて
張 雅晴(北陸大学編入生)
② 中国語圏における絵本表現の現在
浅野 法子(大阪成蹊短期大学)
③ 読み手の心を動かす作品の構造についての考察:ヴィゴツキーの『芸術心理学』を軸に
伊藤 美和子(花園大学)

D(1-109 D 教室) 座長: 村中李衣・鈴木穂波

- ① 絵本における「行きて帰りし物語」と保育の場での子どもの絵本体験
村田 康常(名古屋柳城女子大学)・黒岩 菜由(名古屋柳城短期大学附属柳城幼稚園)
② 絵本の読み聞かせについての一考察ー学生の絵本についてのアンケート結果よりー
金子 亜弥(埼玉東萌短期大学)

◎作品発表 6月18日(日) 11:15 ~ 12:30 (1-109D 教室)

座長: 宮崎詞美・香曾我部秀幸

- ① あの日の月見草
曾 子安(京都芸術大学大学院生)
② おちばのフィーリング
藤井 スミ苑(ひこね児童図書研究グループ)
③ いとをかし
加賀美 裕子(美術の祭典東京展「絵本の部屋」事務局)
④ えのぐ
手良村 昭子(関西学院聖和短期大学教授)

◎ラウンドテーブル「つなぐ、つながる、つながりあう」

①「つなぐ：子どもと絵本—児童書専門店・幼稚園・保育園の取り組みから—」(1-102 B 教室)

書店や絵本文庫は、子どもたちが絵本と出会う大切な場所。現場の声にふれ、子どもと絵本をつなぐ取り組みに注目します。

コーディネーター：関純奈（愛知工業大学附属図書館）

パネリスト：天島あゆ美（児童書専門店 Karite）

小澤佐季子（梅花幼稚園こうめ文庫）

山下乃里江（あおば福祉会瀬川保育園）

②「つながる：子どもの造形遊びと絵本」(1-108 D 教室)

世界の様々な国で子どもたちとのワークショップをされてきた絵本作家のきたむらさとしさんと共に、子どもの造形遊びの視点から絵本を考えます。

コーディネーター：鈴木穂波（大阪大谷大学）

パネリスト：きたむらさとし（絵本作家・神戸市外国語大学客員教授）

水島尚喜（聖心女子大学）

山本将之（大阪大谷大学）

③「つながりあう：絵本を描く、届ける、読みあう」(3-103 教室)

絵本を「描く人」こしだミカさん、「届ける人」加藤啓子さん、「読みあう人」村中李衣さんが、絵本ってなんだ？と語り合います。

コーディネーター：村中李衣（ノートルダム清心女子大学）

パネリスト：こしだミカ（絵本・造形作家）

加藤啓子（絵の本あれこれ研究家）

◆作品発表 作品展示 (1-111 教室)

17日：12：15～17：15、18日：9：00～13：30

◆展示：教育の現場からの絵本の創造 (1-112 教室)

17日：12：15～17：15、18日：9：00～15：40

大阪総合デザイン専門学校・京都芸術大学・静岡文化芸術大学・筑波大学・横浜美術大学・梅花女子大学の卒業生または在校生のオリジナル絵本作品を展示します。

◆絵の本ひろば (3-105 保育室)

17日：12：15～17：15、18日：9：00～15：40

おとなも子どもも自由に好きな本に出会える場です。

協力：大阪大谷大学教育学部幼児教育専攻

絵の本いろいろの会

飛鳥・檀原ユネスコ協会

【お問合せ先】

第26回絵本学会大会実行委員会事務局

大阪大谷大学教育学部 鈴木穂波研究室内

メールアドレス：ehongakkai26@gmail.com

訃報

三宅興子さんのご逝去を悼んで

絵本学会第3代会長の三宅興子先生（84歳）が2022年10月21日に逝去されました。絵本学会へのご貢献に感謝し、謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

三宅先生は、児童文学研究者、絵本研究者として広く知られ、また一般財団法人大阪国際児童文学振興財団特別顧問などを歴任され、児童文学全般の研究や児童図書の普及にも大きな貢献をなさいました。

略歴

大阪生まれ。日本イギリス児童文学会会長、絵本学会会長、日本児童文学学会理事などを歴任。梅花女子大学名誉教授。2010年から2015年6月まで大阪国際児童文学振興財団理事長をお務めになりました。2019年には世界で優れた研究者に与えられる国際グリム賞を受賞されています。

著書に『イギリス児童文学論』（翰林書房 1993年）、『イギリス絵本論』（翰林書房 1994年）、『イギリスの絵本の歴史』（岩崎美術社 1995年）、『イギリスの子どもの本の歴史』『イギリスの絵本の歴史』『日本の絵本の歴史』（翰林書房 2019年）など多数ございます。

三宅先生、長い間、絵本学会へのご奉仕、ありがとうございました。

絵本学会会長：藤本朝巳



研究委員会

「絵本研究会 2022」開催報告

「日本の絵本を世界に—ベッティナー・ヒューリマンの働き—」

2022年10月29日(土) 14:00～16:00 Zoom Webinar 開催

講師：新潟大学名誉教授 眞壁伍郎先生

2022年度 絵本研究会 絵本研究会

ベッティナー・ヒューリマンの働き

日本の絵本を世界に

外国生まれの絵本家ベッティナー・ヒューリマンは、日本の絵本を世界に紹介した。その経緯と功績を、その代表作『オニロクと木匠』を例として紹介する。ベッティナー・ヒューリマンの功績を、その代表作『オニロクと木匠』を例として紹介する。

2022
10.29 14:00～16:00
オンライン講座 (録画+質疑応答)

300年をわたる子どもの本の歴史を『ヨーロッパの子ども本』上・下(木下尚江監訳)に著したベッティナー・ヒューリマンは、世界の絵本の権威者として知られている。『オニロクと木匠』の著者でもあり、その功績を、その代表作『オニロクと木匠』を例として紹介する。

定員 100名 (先着順)
参加費 要事前申し込み・参加費無料
申し込み締切 9月15日(土) 9:00から
一般参加者 9月15日(土) 9:00から
申し込み 10月15日(土) 20:00まで

お申し込みを希望される方は
左のQRコードより
お申し込みください。

眞壁伍郎

本会では、ベッティナー・ヒューリマンの功績を、その代表作『オニロクと木匠』を例として紹介する。ベッティナー・ヒューリマンの功績を、その代表作『オニロクと木匠』を例として紹介する。

主催・お問い合わせ先：絵本学会 研究委員会 shangakkal.kerkyu@gmail.com

絵本学会研究委員会では、昨年度に引き続き3名の委員(鈴木穂波研究委員長、赤羽尚美会員、山口恵子会員)が、絵本学会会員および絵本に携わる皆様の絵本研究への関心を広げ、絵本学の発展の機会となることを願って、絵本研究会を企画・運営しました。

今年度は、ドイツ語ドイツ文学をご専門とし、長く看護医療従事者育成の教育に携わり、世界各国の児童文学に精通して広く関心を持って絵本に関わってこられた新潟大学名誉教授、眞壁伍郎先生に講師をお務めいただきました。眞壁先生はご自宅で家庭文庫「野の花文庫」を開き、地域では「文庫のおじさん」として、たくさん子どもたちに本の楽しさを伝える活動を45年、また大人のための読書会を60年ほど続けていらっしゃいます。

ご講演にあたって、眞壁先生から参加者の皆様に次のようなメッセージを事前資料として頂戴しました。

日本の絵本を世界に—ベッティナー・ヒューリマンの働き— 語り手 眞壁伍郎

お話にあたって

この講座にご参加くださりましてありがとうございます。大きな題を掲げましたが、お話の内容は、ネズミが壁を少しかじった程度のものとなるはず。ただ、この小さな穴からどれだけいまそれが広がって、子どもたちの文化の交流が世界的に行われているかは、みなさんそれぞれがお確かめ、またお考えいただきたいと思います。左下にあげた写真は、まぎれもない日本の子どもたちの姿です。畳の上で絵本に見入っていますが、この文明国! 日本では、ネコでさえ絵本を楽しんでいる様子で



す。この本の著者ベッティナー・ヒューリマンの日本への思い出がここからも伺えます。タイトルはドイツ語で『絵本のなかの世界』。ヒューリマンの代表的な著作で、イギリスの児童文学者オルダーソン(Brian W. Alderson)がこれをPicture-Book Worldの名で英訳しております。(Oxford University Press 1968.)

美術雑誌グラフィス(Graphis)

1944年10月、第二次大戦の終わりが見えたころ、スイスでは平和に向けての新しい歩みが始まり、形を取り始めていました。その一つが、この雑誌、「グラフィス」でした。これからの世界を担う子どもたちへの期待も込め、この雑誌では世界の子どもの絵本のことも紹介されました。その中にはもちろん敗戦国日本の絵本もあります。そしてその最初の紹介者が、ベッティナー・ヒューリマンだったのです。今回のお話では、そのあたりのことを映像を交えてみなさんにご紹介できたらいいなと思っております。

右下の絵は、その「グラフィス」の創刊号(Graphis Press, 1944)の表紙です。「彼らはその剣を鋤に、その槍を鎌に打ち直す。国は国に向かって剣を上げず、戦いを学ぶことはない。」(旧約聖書イザヤ書2,4)平和は、剣ではなく、絵筆によって! なのです。



ベッティナー・ヒューリマン(1909-1983)という人

かつて文豪ゲーテが住み、総理大臣まで務めたというドイツの古都、ワイマールで出版業を営む家で生まれ、高校を終えるとタイポグラフィーに興味をもち、イギリスにまで勉強に行っています。その後ベルリンで出版の仕事に携わり、スイス出身のマールティン・ヒューリマンと結婚。育児のかたわら、夫の経営する

出版社アトランテスのために編集や出版の仕事にも携わります。

やがてナチスの支配が濃厚になり、夫の故郷、スイスのチューリッヒに移り、精力的に子どもの本の出版にかかわります。かわたわら、子どもの本の歴史に興味をもち、歴史的に貴重な本の収集にも努めます。その実りが、いまも名著とされる『ヨーロッパの子どもの本』(*Europäische Kinderbücher in drei Jahrhunderten*, 1959)です。きっとこれを書きながら絵本についても、別な1冊をと思ったのが、ここに示した『絵本のなかの世界』(B.Hürlimann, *Die Welt im Bilderbuch*, Atlantis, 1965)です。彼女と同じように、ナチスドイツから逃れイギリスに行ったイエラ・レプマン(1891-1970)が、1953年世界の平和と子どもたちの幸せのために、スイスで立ち上げたのが、国際児童図書評議会(IBBY)でした。ヒューリマンはこれに当初から協力し、小さなノーベル賞ともいわれる国際アンデルセン賞の選考委員も務めます。

ふとした来日がつきかけで、日本の子どもの本のことを知り、彼女はこれを世界に向けて知らせる役割を果たしてくれたのです。

ヒューリマンはまた、最近ユネスコの世界遺産に登録された(2017年)フランスの「ペール・カストール文庫」の創設者、ポール・フォシェ(Paul Faucher, 1898-1967)を深く尊敬し、彼から多くを学んでいました。そのつながりがまた、日本のすぐれた絵本をフランスにまで紹介するきっかけになったのです。

以上

今回の絵本研究会の参加申し込みが始まると、会員の皆様だけでなく会員および新潟青陵大学図書館などからの紹介を介した参加申し込みがあり、当日の参加者は65名(内、会員32名、一般29名、講師・委員4名)でした。

眞壁先生はこの度の研究会講師をお引き受けになってから、『だいくとおにろく』(松居直・再話、赤羽末吉・画、福音館書店、1967)のおにろくにご自身を例えて、何を話そうかと悩んだ末に、日本の絵本を世界に紹介したベッティーナ・ヒューリマンの働きについて語ることに決めたとのことでした。

このテーマを語るにあたってまず、アン・キャロル・ムーアの言葉「私たちは過去によって元気づいているのではなく、未来に対する希望に元気づけられている」(A nation kept alive not by memory but by hope)を引用されました。そして、子どもたちに未来を託すために、絵本をこれからどうするのかを共に考え、聞き手の私たちに課題を託すのが、今日の話題の核心であるとお話になりました。世界の中心であった欧米社会から遠く離れた小さな国の絵本が、どのようにして世界の子どもの手に届いたのか、そしてヒューリマンにとって世界に知らせたい日本の絵本の特徴は何だったのでしょうか。この問いを明かし、過去から未来に向かって日本の絵本がこれからどうあるべきなのかを



考えることが、絵本に携わる私たちの課題といえるでしょう。

大きな課題への一歩は、福音館書店の松居直・元編集長が、ヒューリマンに手渡した風呂敷包みの10冊の絵本を推察することから始まります。以下、眞壁先生のご講演内容を振り返ってみましょう。

歴史的な流れ

絵本はその歴史的な流れを追うと、1927年のフォシェ・マリオンによる教育叢書から始まり、ポール・フォシェによる1931年のペール・カストール文庫刊行開始へと続き、1932年にはフォシェが編集をしたポール・アザールの名著『本・子ども・大人』(1944英訳、1957和訳)がフランスで刊行されています。この本はアメリカの図書館員の必読書となったほか、1953年に設立されたIBBYが掲げる理念「子どもの本を通して国際理解を」の礎となり、本によって子どもたちに翼を与え、平和な世界を築くために、子どもの本から始めようとする活動に大きな影響及ぼしました。また、1944年には、国際的な注目を浴びるスイスの美術系雑誌「グラフィス」が英独仏三か国語表記で刊行されました。

「グラフィス」には、戦争の被害からヨーロッパの文化の再建に向けて、絵をもって世界の平和に貢献しようとする願いがこめられています。創刊号の表紙を担当したマックス・フンチカの絵が、ページの随所で平和への想いを問いかけたように、「グラフィス」では絵本もこれまでに5回から6回ほど特集が組まれました。1955年の「グラフィス」61号は、カリジェなどの美しいイラストレーションがある子どもの絵本を特集していますが、この号では日本の絵本の紹介がありません。

その後、1967年の「グラフィス」131号の子どもの絵本特集では、IBBY設立に貢献したイエラ・レプマンによる序文があり、ヒューリマンが選んだ日本の絵本が22冊取り上げられました。このうちの15冊が、福音館書店の「こどものとも」です。日本の絵本が欧米諸国に紹介される一つの機会となり、異国の人が何を日本らしい絵本として考えているのかを読み取るための貴重な資料ともなっています。眞壁先生から、「グラフィス」の絵本特集を振り返ることにより、絵本研究が深まる可能性があるのではないかというご提言がありました。

また、ヒューリマンは「グラフィス」131号に先立って、1965年に刊行された『絵本のなかの世界』(日本未訳、英訳1968年)において、日本の絵本はまだその歴史について書かれてはいないが、絵本の初期のものとして絵巻物があり、木版画が現代のイラストに少なからず影響を与えていると述べています。19世紀後半以降には海外のあらゆる文化の影響を受けた才能豊かな絵本が作られていることを指摘したうえで、堀内誠一、赤羽末吉、瀬川康男、山本忠敬、村田道紀、中谷千代子、山下春雄などの名前をあげています。特に中谷千代子は、子どもっぽさやセンチメンタルに陥らずに子どもたちを楽しませる動物絵本の作家として、高く評価されています。

ヒューリマンと日本の絵本との出会い

さて、ヒューリマンはどうやってこうした日本人作家の絵本と出会ったのでしょうか。『ヨーロッパの子どもの本』や『絵本の中の世界』を刊行したヒューリマンは、世界を旅してどこに行っても必ず真っ先に本屋に行くのですが、日本を初めて訪れた1961年、東京の地下街の書店に立ち寄った時にヒューリマンの目に留まったのは、「こどものとも」の1冊『ジオジオのかんむり』（中谷千代子・絵、岸田衿子・文、1960年7月、52号）でした。日本に滞在した4週間の中で、購入した絵本はこの1冊であり、ほかに目ぼしい絵本が見つからずに絵本探しを諦めたそうですが、『ジオジオのかんむり』が日本の絵本に興味を抱ききっかけとなり、石井桃子を介してこの絵本の編集者であった松居直に会う機会を得ました。

この時、松居が持参した風呂敷包みの絵本10冊をヒューリマンに手渡すと、彼女は松居からもらった絵本を1冊ずつ丁寧に見て感想を述べたそうです。この10冊の中には、ヒューリマンが既に入っていた『ジオジオのかんむり』も入っていたのですが、松居はたくさんの絵本から『ジオジオのかんむり』を自ら見つけ出したヒューリマンの目の鋭さと、子どもの絵本への理解の深さを感じたそうです。松居との出会いがきっかけとなり、ヒューリマンが「こどものとも」についてアメリカやヨーロッパでの講演で紹介するようになったことが、松居の自著『私のことば体験』（福音館書店、2022年）で述べられています。ここで、松居が手渡した10冊のうち1冊がまず明らかになりました。

日本の絵本の代表10冊

ヒューリマンが日本の絵本の代表としてスイスまで持ち帰った残りの9冊を推察するためには、まず福音館書店編集部による『おじいさんがかぶをうえました一月刊絵本「こどものとも」50年の歩み』（2005年、福音館書店）が参考になります。松居が選んだ絵本は、1956年の創刊から1961年のヒューリマンが来日するまでに刊行された60冊～70冊の中にあるはずですが、また、『絵本のなかの世界』で紹介されている絵本と、「グラフィス」131号の特集でヒューリマンが紹介した22冊のうち15冊の「こどものとも」が参考になるでしょう。さらに、スイス児童図書館が1992年に刊行したヒューリマンの蔵書目録には、日本人作家の絵本が375冊取り上げられています。この目録には中谷千代子29冊、瀬川康男25冊、安野光雅24冊、赤羽末吉21冊、堀内誠一17冊をはじめとして、丸木とし子（丸木俊）、梶山俊夫、かこさとし、田島征三、山本忠敬、小野かおる、朝倉摂、初山滋、石井桃子、中川宗也、大村百合子、佐藤忠良、山田三郎などの作品が含まれます。

これらの情報を合わせて、眞壁先生がご提示なさったヒューリマンが持ち帰ったと考えられる風呂敷包みの絵本は、次の10冊でした。

- ・『がんばれさるのさらんくん』（長新太、「こどものとも」24号、1958年3月）

- ・『てんぐのこま』（山中春雄、「こどものとも」27号、1958年6月）
- ・『くろうまブランキー』（堀内誠一、「こどものとも」33号、1958年12月）
- ・『七わのからす』（堀内誠一、「こどものとも」41号、1959年8月）
- ・『やまなしもぎ』（佐藤忠良、「こどものとも」42号、1959年9月）
- ・『あたらしいうち』（村田道紀、「こどものとも」48号、1960年3月）
- ・『ジオジオのかんむり』（中谷千代子、「こどものとも」52号、1960年7月）
- ・『きつねのよめいり』（瀬川康男、「こどものとも」53号、1960年8月）
- ・『のろまなローラー』（山本忠敬、「こどものとも」54号、1960年9月）
- ・『かさじぞう』（赤羽末吉、「こどものとも」58号、1961年1月）

皆さんの推察はいかがでしょうか。

ヒューリマンが考える日本の絵本の典型的な特徴とはなにか

ヒューリマンによれば、絵本のテーマは日本も世界もほとんど同じように分類され、むかし話、動物のお話、わらべ歌、空想物語、自然や技術の世界を扱ったものなどがあげられます。村田道紀による『あたらしいうち』（「こどものとも」48号）のように日本家屋が造られていく過程を描いた日本固有の伝統的なテーマや、山本忠敬の『のろまなローラー』（「こどものとも」54号）などを代表とする技術的な世界を扱うとなると、とても大胆な描き方がされています。筆を使った柔らかな水彩画から正確で緻密な描写まであらゆる技法が駆使され、画面構成、絵と文章の配置もしっかりしています。自由にのびのびとページを構成し、見開きにするなどして本全体をまとめあげ、テキストも字体も調和を保っています。堀内誠一、赤羽末吉などの画家はたくさんの絵本を描いていますが、そこに現代芸術と日本の伝統的な絵による物語手法が融合しているのを見ることができます。テーマへの関心の寄せ方はどこの国でも同じようですが、構成の仕方がいかにも日本人らしいと思われるものがあり、技術的なテーマを生き生きと描くその手法は見事です。動物の寓話とその描き方も古くからの伝統を思わせ、こうした点で中谷千代子はずば抜けています。また、日本の子どもたちによその国を身近に感じさせようとする努力もなされていて、世界の民族や人種などのほか、ロシアやグリムのお話などもさまざまに取り上げられています。日本では出版社が毎年新しい画家を得て、「こどものとも」と同じような出版を始め、日本人の絵本への関心を高めたり、国を超えて世界の人に語りかけたりしながら、日本独自のスタイルが益々発展していくのではないかと、ヒューリマンは日本の絵本の発展に期待を寄せています。

眞壁先生は、ヒューリマンが述べているように、絵本のテーマの分類は世界共通ですが、ヨーロッパの文化では1枚のタブロー（絵・画面）の中で全てを表現して物語り、タイポグラフィを重視するのに対して、絵巻物の文化を持つ日本では、

『へそもち』（赤羽末吉・絵、渡辺茂男・文、福音館書店こどものとも絵本、1980年）が上下に伸ばして見開きの画面を自由に構成しているように、連続性の中で物語り、字体も自由に表現しているという特徴があると説明してくださいました。

ヒューリマンの子どもの絵本をみる視点

先に述べたように、ヒューリマンが最初に手にとった日本の絵本は、中谷千代子の絵と岸田衿子の文による『ジオジオのかんむり』でした。動物を主人公とした絵本作家として認められた中谷は、絵本作りに携わる中で、自分を育ててくれた3人の編集者として、松居直、ベッティーナ・ヒューリマン、ポール・フォシェの名前をあげています（『三人の絵本編集者』中谷千代子）。中谷とフォシェのつながりは、ヒューリマンが最初に来日した翌年、1962年に松居がフランクフルト書籍展に行った際、フランスのフォシェとスイスのヒューリマンを訪ね、中谷（絵）と岸田（文）の『かばくん』（「こどものとも」79号、1962年9月）をフォシェに献呈したところ、フォシェはこの絵本をとても気に入って、フランスでの翻訳出版を希望したことに始まります。翌年、1963年に中谷はフォシェとヒューリマンを訪問しています。

フォシェはヒューリマンが尊敬する編集者であり、障害児や見捨てられた子どもの教育に生涯を捧げたバクレの実践教育に共鳴する教育者でもあります。フォシェは中谷に子どもの絵本の教育的役割と物語の重要性について語り、最後に「あなたは日本人なのだから日本の絵本を作ることです。どこの国でも古典に戻ることはたいへん安易なことです。画一化されていく都市の発展の中で、日本をとらえることが大切な問題でしょう」と話しました。眞壁先生は、このフォシェの言葉の意味することは、昔から売れるタイプの絵本、これを描けば当たるという本を作ることのたやすさに陥らないように、注意を促しているのではないかと説明してくださいました。

その後、フォシェが1967年に亡くなった際に、中谷はフォシェとの出会いを通して、「幼い子どもたちが喜ぶ絵本を描いていくために、子どもたちの興味がどこいうところにあり、またどういうものに向けさせなければならないのかを、絶えず子どもたちから学ばなければならないと思う」という所感を表明しています。つまり、子どもを抱いて本を読んであげる時のように、子どもの目線のちょっと上から絵本を見る視点が大切であることをフォシェから学んだということです。中谷はフォシェへの追悼の想いをこめて『たろうというか』（1970）を描きました。フォシェが好きだった『かばくん』は、ペール・カストール文庫から翻訳版 *Hippo*（1965年）が刊行されました（1981年12月中谷没、1982年「中谷千代子絵本の世界展」掲載）。中谷がフォシェからの学びを胸にして描いた『たろうというか』は、ヒューリマンが一番好きな絵本だと述べています。

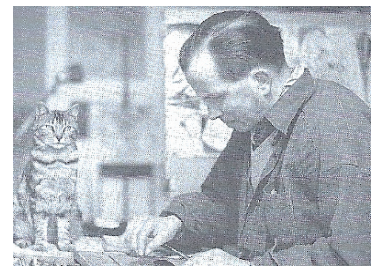
この講演の資料の最初に提示したヒューリマンの自著『絵本のなかの世界』（1965年）の表紙は、最初の来日の際に夫のマーティンが日本の子どもたちの姿を撮った写真の1枚です。この子

どもたちが本を見ている写真は、まさにヒューリマンが子どもの視点から本を見ることの大切さを伝えています。ヒューリマンは『絵本のなかの世界』においてどういう絵本が子どもたちにとって良いのかということを一切書かず、代わりに、子どもたちがどのように一冊、一冊の絵本を楽しんだかということを書いていきます。4人の子どもたちを育て、孫に囲まれて絵本を読んであげてきたヒューリマンが、子どもたちは何をどういうふうに気に入っているのかということを、絶えず自分の肌で感じてきた経験を伝えているのでしょう。ヒューリマンもまた、尊敬するフォシェと同じように、あくまでも子どもの目で絵本をどう見ているのかということ大切に考えています。

このことについて、眞壁先生は次のように例をあげて説明をしてくださいました。例えば、ハンス・フィッシャーが猫の話を描く時、どんなふうに猫を描こうとしたかということ、猫の目線より少し高いところで見える視点、猫はどんな風に見るかを表現して、猫が長靴を履く苦勞を描こうとしています。同じようにフェリクス・ホフマンの絵もすばらしいですね。本の挿絵の天才です。『七わのからす』や『おおかみと七ひきのこやぎ』をはじめ、彼は本文をよく読み、その世界を見事に表現しています。ホフマンも読者層に合わせてどの目線

で描けばよいかを考えています。父親として、たくさんの絵本を子どもに読んだ経験を持つ彼は、「子どものために絵を描く時は、子どもの目の高さに降りることも、子どもを膝に抱きあげて一緒にものを見ることが出来ます。私はその後者の目の高さで描くように心がけました」と述べています。絵本

は子どもを膝に抱いて一緒に見る、子どもの目の高さに合わせて見ることが大切なのです。



絵描き（フィッシャー）とそのモデルフェルドマイレンのアトリエにて（1955年）出典：『ハンス・フィッシャーの世界』（小さな絵本美術館、2001、p.93）

【ご講演を終えて研究委員会より】

眞壁先生のお話をうかがいながら、ヒューリマンが常に子どもの視点から絵本の楽しさを味わい、子どもたちの喜びに寄り添う絵本を世界中から集め、絵本の発展に貢献したことへの感謝の想いを感じることができました。フィッシャーやホフマンの絵本は日本でも翻訳版が刊行され、ロングセラーとなっていますが、長く愛され続ける理由の一つに、子どもたちの目線を意識して描かれた絵が、彼らの心をとらえるのだということがわかりました。欧米の影響と独自の文化と融合しながら発展してきた日本の絵本もまた、ヒューリマンの働きによって世界に紹介され、世界中の子どもたちの心に届くようますますの発展が期待されて

います。

冒頭でお話いただいたように、絵本は戦争で失われた文化の再建への想いを受けて、平和な世界を築く試みを子どもたちの本から始めようという理念に支えられて発展してきました。未だ世界では戦争によって、子どもと大人が共に絵本を楽しむ当たりまえの日常が脅かされている国もあります。子どもたちに平和な未来を託すために原点に立ち返り、絵本研究というものについてあらためて考える機会を頂戴した眞壁先生に、改めて深謝申し上げます。

本研究会開催の4日後、松居直先生が日本の絵本の発展に大きな功績を残してご逝去なさいました。ここに松居先生への敬意と感謝を示し、ご冥福をお祈り申し上げます。合掌

【参加者との質疑応答から】

Q：日本とスイスの絵本の共通性はあるでしょうか。

A：四季の豊かさや時の移ろいを身近に感じている点ではないでしょうか。スイスでは、田舎であるゆえの時の秩序などを肌で感じて生きているように思います。妖精物語とはちょっと違いますが、スイスの険しい山の急流にかかる橋や鉄道をどのように作ったのかを考えると、『だいくとおにろく』のことを思い出します。都会というより田舎の様子が共通にありそうです。厳しい自然の中でどう生きるのかということが感じられるのです。また、絵本には国民性ということも反映しますが、スイス国立図書館長のチルキーさんが「どこの国の子どもであろうと、スイスに来たら必ず守ります」と述べている通り、スイスではここに来る人を大事にしなくてはならないという意識が高く、自然の豊かさと誰をも救おうとすること、これがスイスのスピリッツであり国民性ともいえます。日本では愛国精神みたいなことを言う時、本当に大事なものをしっかりと見つめていかないといけないと思います。

【参加者アンケートの感想から】

・大変貴重なご講演をありがとうございました。非会員で不勉強ですが、ベッティーナ・ヒューリマンが日本の絵本に感銘を受け、世界に日本の絵本を紹介しようと精力的に活動された具体的なエピソードをお聞きたり、写真などをみたりでき、とても興味深く拝聴いたしました。ご講演の中で、ヒューリマンが日本の絵本について紹介した文章の中で印象に残ったことは、日本の絵本が「テキストも字体も調和がある」と言っていたことについてです。調和を重んじる日本文化を、私自身が茶道や物の取り合わせや着付けの色目などを通して実感しております。この「調和」が日本文化の特徴の一つであることをヒューリマンが理解していた上での文章表現なのか、新たに絵本の作り方についても「調和」を見出したのかということについて興味をもちました。改めて日本ならではの文化的な価値という視点で絵本を見ることの愉しみについても気付かせていただきました。ありがとうございました。

・今回 zoom ではありませんでしたが、お話を聞かせて頂ける機会に

恵まれありがたく思っています。松居さんの著書を読み終えた直後でしたので、眞壁先生のお話でまた理解も深まりました。最近、新刊を中心に学んでおりましたので、今一度、復刻版の「こどものとも」を読み返して、学びなおしたいと思いました。スイスから、日本の絵本を世界に広めて下さったベッティーナさんにも感謝です。

・リモートで開催されたので参加出来て大変ありがたかったです。日本の子どもの絵本の歴史などを振り返ることができました。現在の状況、絵本の未来像などを探る手がかかりとなりました。ありがとうございました。

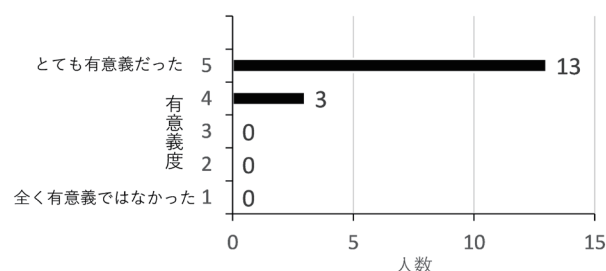
・日本の絵本がさまざまな人との出会いを経て広まり、渡っていくストーリーが感慨深かったです。小さな子どもを対象とする読み聞かせ活動を行っているので、今後も多方面から学びを深めていこうと思います。

*このほか、たくさんのご感想を頂戴しました。アンケート回答にご協力をくださった皆様、ありがとうございました。

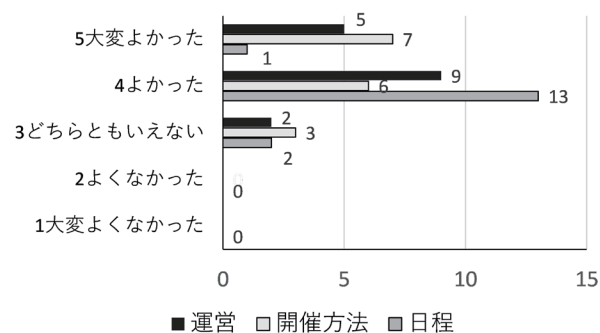
【アンケート結果報告から】

16名の参加者の皆様からのご回答がありました。

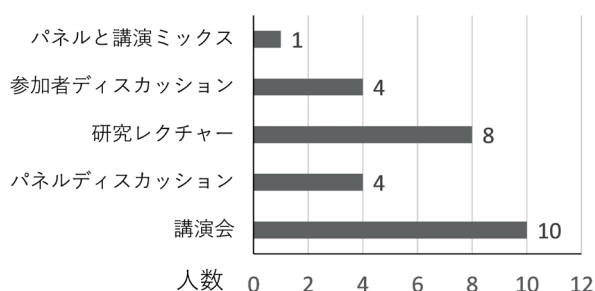
①ご自身の興味・関心や研究活動にとって、有意義なものでしたか。



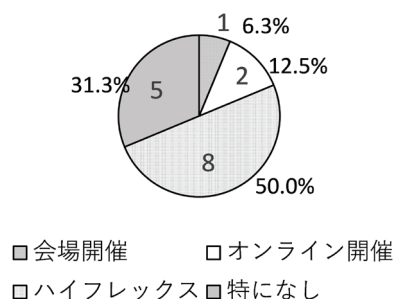
②日程、開催方法、運営について評価してください。



③どのような研究会を希望しますか（複数回答可）



④開催方法の希望



⑤その他研究会についてのご希望など

- ・現代の絵本の言葉についての研究会、対面での学会、研究会の開催を希望します。
- ・私は絵本との関わりは長いのですが、研究よりも読み聞かせなどの実践に力を入れています。本日のような1人の人に焦点をあてたセミナーを受講出来るのは、とてもいいと思います。同時に同じようにテーマを持つもの同士による実践報告会、ディスカッションなどもあれば嬉しいです。
- ・様々な研究をみなさんがなさっておられ、大変興味深くいつも学ばせていただいております。研究テーマの近い方との交流会等があればありがたいな、と思います。

以上

*文責：絵本学会絵本研究委員会 赤羽尚美

研究委員会からのお知らせ

◎ 2023 年度研究助成応募申請要項について

2023 年度研究助成についてお知らせいたします。学会員皆様の応募をお待ちしております。応募申請の手順等は以下の通りです。

①応募資格

応募時に 2023 年度年会費納入済みの絵本学会会員であること。プロジェクト研究の場合、構成員全員が応募時に会員であること。

②申請方法

絵本学会ホームページ掲載の「2023 年度研究助成申請書」をダウンロードして入力し、メールタイトルに「研究助成応募申請」と明記の上、絵本学会研究委員会宛にメール添付にて申請してください。

③募集の件数および助成金額

合計 3 件（1 件につき 5 万円の助成）

④応募期間

募集開始：2023 年 6 月 1 日（木）

締め切り：2023 年 6 月 30 日（金） 必着

⑤結果の通知

2023 年 7 月末日までに研究委員会より研究（代表）者宛てに採否及び採否理由についてメールで通知します。なお、採択された場合、研究（代表）者の氏名、所属（職名）、研究テーマを公表します。

⑥研究成果報告書の提出について

研究成果の報告書を A4 サイズ 1 枚程度（書式、字数は自由）にまとめ、決算報告書を添付の上、2024 年 3 月 10 日までに研究委員会宛にメール添付にて提出してください。研究成果は、絵本学会大会や『絵本学』での公開を望みます。

【問い合わせ・提出先】

絵本学会研究委員会 ehongakkai.kenkyu@gmail.com

紀要編集委員会からのお知らせ

『絵本学』第26号投稿募集

『絵本学』第26号(2024年3月刊行予定)の投稿を募集します。
下記の投稿規程ならびに絵本学会ホームページに掲載の執筆要項を十分お読みの上、ご投稿ください。

投稿締切日：2023年9月30日(必着)

原稿送付先・問い合わせ先：ehongaku.kiyo@gmail.com

絵本学会紀要編集委員会

研究紀要『絵本学』投稿規程

1. 投稿資格

絵本学会会員および準会員で、当該年度8月31日までに会員資格を有していること。

2. 投稿の種類

絵本に関する研究論文、研究ノート、論説で未発表のもの。

【研究論文】研究の視点や手法、理論展開および結論に独創性や説得力が高く認められるもの。

【研究ノート】研究の基礎データになる資料調査・実践などの報告、あるいは理論構築の可能性が認められるもの。

【論説】学術的な論で、注目すべき研究・作品・作家・展覧会・活動を取り上げての評論など。

3. 投稿原稿の採否

- 1) 査読に基づき、紀要編集委員会が採否を決定する。必要に応じて紀要編集委員の外に査読を依頼する。
- 2) 紀要編集委員会は執筆者に内容の修正を求める場合がある。
- 3) 採否の結果は当該年12月末までに執筆者に通知する。執筆者は採否の結果について説明を求めることができる。この場合、紀要編集委員会は申し出内容を精査の上、適正範囲内で回答する。

4. 執筆要領

執筆は別に定める「執筆要項」(絵本学会ホームページに掲載)に則ること。

5. 著作権

- 1) 『絵本学』に掲載される論文等の著作権は執筆者に帰属する。執筆者は掲載決定後、絵本学会に、著作権のうち複製権の行使を再許諾権付きで許諾するものとする。
- 2) 論文等に引用される文章、図版、写真等の著作権に関する事項はあらかじめ執筆者の責任において処理すること。

6. 研究倫理

- 1) 研究は十分な倫理的配慮の上に行うこと。
- 2) 個人事例を取り上げる際には、個人情報や秘密を保護することに配慮する。研究対象者・保護者・所属長、研究協力者などから文書による承諾を得、論文等にその旨を記載する。

7. 投稿締切日

当該年9月30日(必着)

8. 刊行

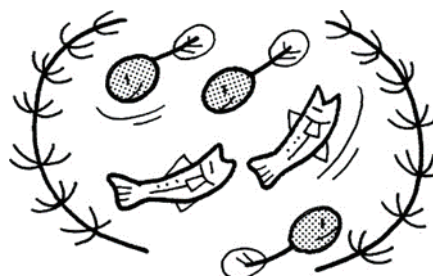
当該年度内

9. 原稿の送付

- 1) 原稿は電子データをメールに添付して送付する。
- 2) 原稿送付先：絵本学会紀要編集委員会(メールアドレスは別に指定)

規程の改廃は理事会の審議を経て決定される。

改正日 2022年3月9日



第5回『日本絵本研究賞』等候補 (2022)：一次選考報告

「日本絵本研究賞」は、絵本学会創立20周年を記念して絵本研究や評論活動のさらなる活性化を図る目的で創設されました。年次開催の運営委員会による一次選考をもとに、3年に一度開催される選考委員会によって最終選考が行われ、入賞発表及び表彰が行われます。

2022年は第5回日本絵本研究賞選考の2年次目となり、2021年10月1日～2022年9月30日の期間に発表された論文、評論、報告の中から一次選考が行われました。特別賞は、上記期間に発表された著書を対象としたものです。

受付期間(2022年11月1日(火)～11月30日(水)必着)内に、「研究賞」11点、「特別賞」4点の計15点がノミネートされました。昨年度は、「研究賞」が4点、「特別賞」が3点の計7点でしたので、倍以上の応募数となりました。一次選考の最終選考会は、2023年2月23日(木/祝)にリモート会議(Google Meet)によって行われ、合議の結果、委員全員の一致で第5回『日本絵本研究賞』等の候補(2022)計4点が決定し、理事会において承認されました。

尚、第5回の研究賞運営委員は、「日本絵本研究賞規則第3条」によって選出された以下の方々です。

鈴木穂波、永田桂子、長野麻子、水島尚喜、森寛
(アイウエオ順/敬称略)

◎選考理由

何れも、賞候補として相応しい質を備えた研究内容でした。それらの概要と委員会で提出された評価の概略は、以下の通りです。

論文対象「日本絵本研究賞」候補 ○ 2022 年次研究優秀賞

・喜久山悟「儀間比呂志の美術一画法に映る沖縄の近・現代」(齋木喜美子編著『立ち上がる艦砲の喰い残し：沖縄における教育・文化の戦後復興』関西大学出版会、2022年3月、pp.77～104)

【短評：森 寛】

本論文は、メディアを通して表現される表象としての儀間作品を考察し、作者自身の言説を手がかりに、その図像表現がいかなる要因により形成されたのかを紐解くものである。南洋時代に

出会った杉浦佐助とその師である土方久功を介した文明批判・周縁主義的なゴーギャンの作風や、ピカソのキュビズムやプリミティブな表現を儀間作品に見出すなど、ある作品表現のなかに別の作品表現を見出すというジュリア・クリステヴァの間テクスト的な比較分析は、儀間作品の表現そのものに向き合う考究として評価できる。

・杉浦篤子「北海道の絵本作家1手島圭三郎 発想の原点としての北方風土」

(日本児童文学学会北海道支部(編著)/横田由紀子(監修)/柴村紀代(監修)/谷咲子(監修)『北海道の児童文学・文化史』共同文化社、2022年3月、pp.459～472)

【短評：鈴木穂波】

『絵本学』(絵本学会研究紀要2009-No.11)発表の論文「手島圭三郎絵本一木版画による幻想表現—発想の原点としての北方風土」を出発点にした論考で、時間をかけて非常によく整理されている。北海道における手島圭三郎の経歴や活動、アイヌ文化や北方風土といった作風に影響を与えた北海道の歴史・文化・風土への詳細な言及がみられる。作家論ではあるもののそれにとどまらず、ある作家が創り出す作品表現を通じた地域のイメージを明らかにする地域表象論としても読むことができる。

・尾崎るみ「長谷川武次郎のちりめん本出版活動の展開—『欧文日本昔噺』シリーズが20冊に達するまで」(『白百合女子大学児童文化研究センター研究論文集 25』白百合女子大学児童文化研究センター、2022年3月、pp.29～54)

【短評：永田桂子】

先行研究に依拠しつつ長谷川武次郎のちりめん本出版の経緯を丁寧に紐解く労作である。論者による新たな指摘(ちりめん加工の実態にふれた文献の発見、小林永濯の表紙絵とドイツの挿絵画家ロイテマンの挿絵の類似性、上田万年が重訳した『おほかみ』の特定)もあり、興味深い。

時代的に不明な事柄が多いために部分の調査に手間取り、現段階では研究のポイントが絞りきれない弱みもあるが、わが国の絵本の歴史研究を充実させる論考として今後のまとまりが期待できる。

書籍対象「日本絵本研究賞特別賞」候補

○ 2022 年次特別賞研究優秀賞 「該当なし」

○ 2022 年次特別賞優秀研究秀賞次点

・澤田精一『光吉夏弥：戦後絵本の源流』(岩波書店、2021年10月、全158p.)

【短評：水島尚喜】

戦後絵本の翻訳者として活躍した光吉夏弥の評伝として、

資料的価値が認められる。とくに新しい成果として注目すべきは、戦後における光吉の活動の源流となり、基盤をなした戦前・戦中における鉄道省外局国際観光局や国際報道工芸部(旧日本工房)の活動実態、舞踏評論家としての足跡に言及したことである。労作であり、今後の絵本論としての掘り下げが期待される。

文責：研究賞運営委員会委員長 水島尚喜



新入会員の自己紹介

劉娟(横浜国立大学非常勤講師)

りゅう・けん と申します。私は中国における、2000 年代後半から急成長を遂げてきた外国絵本の翻訳出版の受容を研究しております。去年 3 月に横浜国立大学で学位を取得した博士論文『中国における翻訳絵本の受容に関する研究——児童教育との関連を中心に』において、中国における翻訳絵本の受容上顕著な特徴である、幼稚園の言語教育や小学校の国語教育における使用について、学習者の資質の向上を図る「素質教育」を推進する 1990 年代以降の教育改革との関連を中心に分析を行いました。そして翻訳絵本が教材として受容された大きな理由は、それを教材として取り上げる側が、「素質教育」の要素の一つ「想像力の養成」に貢献できるという価値を絵本に見出したためだと結論付けました。博士課程では中国において翻訳絵本を教材とした経緯や要因という「内」側の研究を行ったが、今後は日本が中国の絵本の発展に及ぼした影響という「外」側からの分析を行いたいです。ご指導のほどよろしくお願い申し上げます。

中山智子(京都外国語大学 外国語学部教授)

はじめまして。フランスの 18 世紀文学、特に演劇を専門にしている大学教員です。以前から大学で『星の王子さま』や絵本をフランス語で読む授業を行ってきました。絵本との関わりを本格的に意識するようになったのは、共同研究のプロジェクトとして、外国語を学ぶ学生たちによる地域の図書館や保育施設での絵本の読み聞かせを指導するようになってからです。読み聞かせ活動のために絵本を調べるうちに、世界の文化についての絵本や、多言語絵本、絵本の多様な言語での翻訳などを知り、文学研究の世界ではあまり語られてこなかった絵本の媒体としての力強さに惹かれています。今後、個人的にも絵本の翻訳等に携わりたいと思います。昨年より、フランスの絵本について研究を志す大学院生を担当することとなり、指導教員としても絵本研究について遅まきながら見識を深める必要を感じています。どうぞよろしくお願いいたします。

三木満紀

この度入会いたしました三木満紀と申します。学校司書をしています。

小中学校の児童生徒たちに、ブックトークや読み聞かせを通して、絵本の素晴らしさを伝えたいと願い、活動してまいりました。絵本学会でさらに絵本について学んでいきたいと思っています。どうぞよろしくお願い致します。

寄贈図書

今村光章著『環境教育学のために』（めるくまー、2023.3）
寄贈者：今村光章（会員）



第1部「環境教育学の基礎理論」

第2部「環境教育学の越境を求めて」

2部では環境絵本についても論じられています。

絵本学会理事会議事録

2022年度 絵本学会 第3回理事会 議事録案

日時：2022年9月19日（月）14：00～ 於：オンライン

出席：藤本朝巳（会長） 丸尾美保（会長代理）

佐々木由美子（事務局長） 鈴木穂波 長野麻子

馬見塚昭久 水島尚喜 宮崎詞美 山本美希

欠席：甲木善久

記録：（馬見塚） ＊次回、水島先生。以後、五十音順で担当

議事次第

前回2022年度第2回絵本学会理事会議事録および第3・4・5・6・7・8回メール審議議事録の確認

⇒ 原案通り承認された。

◆報告事項

1. 各委員会報告

①企画委員会

山本委員長より、資料をもとにフォーラムの計画が説明された。静岡文化芸術大学を会場とするが、会員向けにはオンライン配信をすること等が確認され、原案通り承認された。

②紀要編集委員会

長野委員長より、資料をもとに『絵本学』掲載論文の機関リポジトリ登録への申請と承諾について説明がなされた。これまで申請があった場合には、藤本会長が個人印を使って対応していたが、今後はメール審議にて理事会で承認後、「絵本学会印」を押印し、PDFで送付することが確認された。また、『絵本学』25号の刊行スケジュールが周知され、依頼原稿「絵本原画展・絵本画家展リスト」「絵本研究参考文献目録」については理事会の承認は不要であることが確認された。

③機関誌編集委員会

機関誌編集委員会委員長代行の藤本会長より、『絵本BOOKEND』の進捗状況について説明があり、『絵本学会NEWS』74号に合わせて発刊予定であることが報告された。

④研究委員会

鈴木委員長より、資料をもとに2022年度研究助成についての確認があった。また、今年度絵本研究会の応募状況と役割分担が報告され、来年度の絵本研究会の方向性が確認された。

⑤広報委員会

馬見塚委員長より、『絵本学会 NEWS』74 号の記事内容について説明があり、「事務局からのお知らせ」および「機関誌編集委員会からのお知らせ」が追加されることが確認された。また、各委員会からの原稿は、NEWS のフォーマットに入力するよう依頼があった。

⑥日本絵本研究賞運営委員会

水島委員長より、進捗状況が報告された。

2. 第 25 回絵本学会大会実行委員会

大会実行委員会の馬見塚委員長より、絵本学会員 135 名、一般（学生含む）76 名、合計 211 名の参加があり、約 26 万円の決算収益があったこと、また、『絵本学会 NEWS』75 号に合わせて「大会報告集」の作成を進めていることが報告された。

なお、25 周年記念企画動画「葉祥明・絵本が育む心の世界」については、絵本学会の意向（公開の終了等）を尊重するという条件で、葉祥明美術館の HP「葉祥明・動画配信アーカイブス」にて公開することが確認された。

3. その他

特になし

◆審議事項

1. 入退会者について

以下の 1 名の退会が承認された。

寺島知春

準会員 a に種別変更後、2022 年度末をもって退会

2. 2023 年度第 26 回絵本学会大会について

第 26 回絵本学会大会実行委員会の鈴木委員長より、資料に基づき、「絵本学会大会のおしらせ・第 1 報（案）」と「第 26 回絵本学会大会準備スケジュール（案）」／第 26 回絵本学会大会実施要項（案）」についての説明があった。参加費については、いくつか意見が出されたものの、（シンプルにした方が良く、一般参加者が参加しやすい参加費を考えた方が良く等）それ以外の大枠については原案通り承認された。

3. 次年度機関紙編集委員について

機関誌編集委員会委員長代行の藤本会長より、次年度の体制について提案があり、以下の通り承認された。

・藤本会長⇒機関誌編集委員会委員長代行（機関誌編集委員長）

・生田美秋先生⇒機関誌編集委員会委員（機関誌副編集委員長）

4. 名誉会員について

藤本会長より、名誉会員制度についての説明があり、制度作りの検討を始めることが承認された。

5. その他

佐々木事務局長より、次回発送物の納品日について追加確認があった。

12 月 1 日（木）毎日学術フォーラム必着

次回の予定

2023 年 1 月

2022 年度理事会 第 9 回メール審議議事録

日時：2022 年 10 月 3 日（月）発信

回答：藤本朝巳（会長） 丸尾美保（会長代理）

佐々木由美子（事務局長） 鈴木穂波 長野麻子

馬見塚昭久 水島尚喜 宮崎詞美 山本美希

◆審議事項

1. 新入会員について

以下の新入会者（敬称略）が承認された。

入会者：正会員 中山智子

2022 年度理事会 第 10 回メール審議議事録

日時：2022 年 11 月 2 日（火）発信

回答：藤本朝巳（会長） 丸尾美保（会長代理）

佐々木由美子（事務局長） 鈴木穂波 長野麻子

馬見塚昭久 水島尚喜 宮崎詞美 山本美希

◆報告事項

後援した絵本展が終了し、各美術館から提出された報告書が共有された。

ちひろ美術館・東京「江戸からいまへ日本の絵本展」

軽井沢絵本の森美術館「春夏展フェアリーテイルの世界」

◆審議事項

1. 新入会員および退会について

以下の新入会者（敬称略）が承認された。

入会者：正会員：山本祥子 早川礎子

準会員 a：張雅晴

退会者：浅川陽子（2023.3 月末をもって退会）

2022 年度理事会 第 11 回メール審議議事録

日時：2022 年 12 月 1 日（木）発信

回答：藤本朝巳（会長） 丸尾美保（会長代理）

佐々木由美子（事務局長） 鈴木穂波 長野麻子

馬見塚昭久 水島尚喜 宮崎詞美 山本美希

◆報告事項

前回、理事会で入会が承認された早川磯子氏より、一身上の都合により入会希望を取り下げたい旨の連絡があったことが報告された。

◆審議事項

1. 新入会員および退会について

以下の新入会者（敬称略）が承認された。

入会者：正会員 須河内優子 明石英子

2. BOOKEND 印刷部数について（機関紙編集委員会より）

今年度の BOOKEND の印刷部数を従来の 2000 部から 1500 部とすることが承認された。

理由)

①発行期日が例年より遅れたことにより、当初の売上げが見込めないため

②物価高騰のため、当初予算を大幅にオーバーするため

3. 後援依頼

以下の主催団体より後援名義使用の申請があり、絵本学会として後援することが承認された。

イルフ童画館開館

25 周年記念展「日本中の子どもたちを笑顔にした絵本作家 かがくいひろしの世界展」

会期：2023 年 6 月 15 日 - 9 月 16 日

2022 年度理事会 第 12 回メール審議議事録

日時：2022 年 12 月 20 日（火）発信

回答：藤本朝巳（会長） 丸尾美保（会長代理）

佐々木由美子（事務局長） 鈴木穂波 長野麻子

馬見塚昭久 水島尚喜 宮崎詞美 山本美希

◆審議事項

1. 後援依頼

以下の主催団体より後援名義使用の申請があり、絵本学会として後援することが承認された。

ちひろ美術館

展示タイトル：没後 50 年 初山滋点 見果てぬ夢

会期：2023 年 3 月 18 日～ 6 月 18 日

イラストレーション募集のお知らせ

絵本学会 NEWS に掲載するカットイラストレーションを募集しています。

ご協力いただける方は、ehongakkai.kouhou@gmail.com までメールでお知らせください。

改めて、広報委員会より詳細についてご連絡させていただきます。



編集後記

冒頭でご案内の通り、第26回絵本学会大会が近づいてまいりました。今回は待ちに待った対面での実施です。相変わらず厳しい世界情勢ですが、私も"よりどころ"としての絵本について考えてみたいと思います。会場で皆さまにお会いできますことを心より楽しみにしております。

(馬見塚昭久)

出会いと別れの季節です。

「初めまして、さようなら。」

今年はマスクを外して卒業式に参列された方も多かったのではないのでしょうか。お互いの顔を知らなかったのに、お別れの日に初めて笑顔を見せあい、ここから始まるのだという胸に込み上げてくる思いがありました。

まだまだ落ち着かない日々ですがみなさまお元気でお過ごしください。今号もご協力いただきましたみなさまに感謝申し上げます。

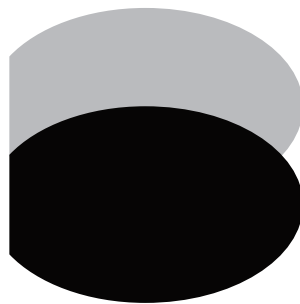
(宮崎詞美)

お忙しい中、原稿をお寄せくださった皆様、ありがとうございます。お陰様で無事に春のNEWSをお届けすることができ。今号は、6月の絵本学会大会のプログラムを掲載しております。大会で皆様とお会いできますこと、心より楽しみにしています。

(松本由美)

テレビはあまり見ないのですが、たまたまニュース番組を見ました。キャスターが「本日はサンキューデーです」と。3月9日でした。これに乗じて「ありがとう」と伝えたい方に伝えてみました。心が少しばかり豊かになりました。「NEWS」にご協力くださった皆さまに「ありがとう」をお伝えします。

(尹恵貞)



絵本学会